

1

解答例のページへ

平面上の三角形 OAB を考える。 $\angle AOB$ は鋭角、 $OA = 3$ 、 $OB = t$ とする。また、点 A から直線 OB に下ろした垂線と直線 OB の交点を C とし、 $OC = 1$ とする。線分 AB を $2:1$ に内分する点を P 、点 A から直線 OP に下ろした垂線と直線 OB との交点を R とする。

- (1) 内積 $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB}$ を t を用いて表せ。
- (2) 線分 OR の長さを t を用いて表せ。
- (3) 線分 OB の中点を M とする。点 R が線分 MB 上にあるとき、 t のとりうる値の範囲を求めよ。

2

解答例のページへ

p と m を実数とし、関数 $f(x) = x^3 + 3px^2 + 3mx$ は $x = \alpha$ で極大値をとり、 $x = \beta$ で極小値をとるとする。

- (1) $f(\alpha) - f(\beta)$ を p と m を用いて表せ。
- (2) p と m が $f(\alpha) - f(\beta) = 4$ を満たしながら動くとき、曲線 $y = f(x)$ の変曲点の軌跡を求めよ。

3

解答例のページへ

座標空間に 3 点 $O(0, 0, 0)$, $A(0, 1, 1)$, $P(x, y, 0)$ がある。 $\angle OAP = 30^\circ$ かつ $y \geq 0$ を満たすように点 P が動くとき, $(x+1)(y+1)$ の最大値と最小値を求めよ。

4

解答例のページへ

次の問いに答えよ。

- (1) $t > 0$ のとき, $-\frac{1}{t} < \int_t^{2t} \frac{\sin x}{x^2} dx < \frac{1}{t}$ が成り立つことを示せ。
- (2) $\lim_{t \rightarrow \infty} \int_t^{2t} \frac{\cos x}{x} dx = 0$ を示せ。
- (3) $f(x) = \sin\left(\frac{3x}{2}\right)\sin\left(\frac{x}{2}\right)$ とおく。 $\lim_{t \rightarrow \infty} \int_1^t \frac{f(x)}{x} dx = \frac{1}{2} \int_1^2 \frac{\cos x}{x} dx$ を示せ。

5

解答例のページへ

投げたときに表と裏の出る確率がそれぞれ $\frac{1}{2}$ のコインがある。A, B, C の 3 文字を BAC のように 1 個ずつすべて並べて得られる文字列に対して、コインを投げて次の操作を行う。

- ・表が出たら文字列の左から 1 文字目と 2 文字目を入れかえる。
- ・裏が出たら文字列の左から 2 文字目と 3 文字目を入れかえる。

例えば、文字列が BAC であるときに、2 回続けてコインを投げて表、裏の順に出たとすると、文字列は BAC から ABC を経て ACB となる。

最初の文字列は ABC であるとする。コインを n 回続けて投げたあとの文字列が ABC である確率を p_n とし、BCA である確率を q_n とする。

- (1) k を正の整数とするとき、 $p_{2k} - q_{2k}$ を求めよ。
- (2) n を正の整数とするとき、 p_n を求めよ。

1

問題のページへ

- (1) $OA = 3$, $OB = t$, $\angle AOB$ が鋭角の $\triangle OAB$ において, A から OB に垂線 OC を下ろし, $OC = 1$ であるとする,

$$\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = |\overrightarrow{OA}| |\overrightarrow{OB}| \cos \angle AOB = |\overrightarrow{OC}| |\overrightarrow{OB}| = t$$

- (2) $AP : PB = 2 : 1$ より, $\overrightarrow{OP} = \frac{1}{3}(\overrightarrow{OA} + 2\overrightarrow{OB})$

また, A から OP に垂線を下ろし, OB との交点を R とするとき $\overrightarrow{OR} = k\overrightarrow{OB}$ とおくと, $\overrightarrow{AR} = -\overrightarrow{OA} + k\overrightarrow{OB}$ となる。

そこで, $\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{AR} = 0$ から, $(\overrightarrow{OA} + 2\overrightarrow{OB}) \cdot (-\overrightarrow{OA} + k\overrightarrow{OB}) = 0$ となり,

$$-|\overrightarrow{OA}|^2 + (k-2)\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} + 2k|\overrightarrow{OB}|^2 = 0, \quad -9 + (k-2)t + 2kt^2 = 0$$

すると, $t(2t+1)k = 2t+9$ から, $k = \frac{2t+9}{t(2t+1)} > 0$ なので,

$$OR = |\overrightarrow{OR}| = k|\overrightarrow{OB}| = \frac{2t+9}{t(2t+1)} \cdot t = \frac{2t+9}{2t+1}$$

- (3) 線分 OB の中点を M とすると $OM = \frac{t}{2}$ となり, R が線分 MB 上にある条件は,

$$\frac{t}{2} \leq \frac{2t+9}{2t+1} \leq t, \quad t(2t+1) \leq 2(2t+9) \leq 2t(2t+1)$$

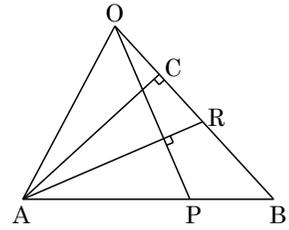
まず, $t(2t+1) \leq 2(2t+9)$ に対して, $2t^2 - 3t - 18 \leq 0$ となり,

$$\frac{3-3\sqrt{17}}{4} \leq t \leq \frac{3+3\sqrt{17}}{4} \dots\dots\dots ①$$

また, $2(2t+9) \leq 2t(2t+1)$ に対して, $2t^2 - t - 9 \geq 0$ となり,

$$t \leq \frac{1-\sqrt{73}}{4}, \quad \frac{1+\sqrt{73}}{4} \leq t \dots\dots\dots ②$$

したがって, $t > 0$ と ①② を合わせると, $\frac{1+\sqrt{73}}{4} \leq t \leq \frac{3+3\sqrt{17}}{4}$ である。



[コメント]

平面ベクトルの基本題です。最後の計算はちょっと面倒でしたが。

2

問題のページへ

(1) $f(x) = x^3 + 3px^2 + 3mx$ に対して, $f'(x) = 3x^2 + 6px + 3m = 3(x^2 + 2px + m)$

$f(x)$ は $x = \alpha$ で極大値をとり, $x = \beta$ で極小値をとるので, その増減は右表のようになる。

これより, $f'(x) = 0$ の 2 つの解が $x = \alpha, \beta$ ($\alpha < \beta$) であるので, $p^2 - m > 0$ で,

$$\alpha = -p - \sqrt{p^2 - m}, \quad \beta = -p + \sqrt{p^2 - m}$$

このとき, $f(\alpha) - f(\beta) = [f(x)]_{\beta}^{\alpha}$ と考えて,

$$\begin{aligned} f(\alpha) - f(\beta) &= \int_{\beta}^{\alpha} f'(x) dx = \int_{\beta}^{\alpha} 3(x^2 + 2px + m) dx \\ &= 3 \int_{\beta}^{\alpha} (x - \alpha)(x - \beta) dx = -\frac{3}{6}(\alpha - \beta)^3 = \frac{1}{2}(\beta - \alpha)^3 \\ &= \frac{1}{2}(2\sqrt{p^2 - m})^3 = 4(\sqrt{p^2 - m})^3 \end{aligned}$$

(2) $f(\alpha) - f(\beta) = 4$ から $4(\sqrt{p^2 - m})^3 = 4$ となり, $p^2 - m = 1 \dots\dots\dots(*)$

さて, $f''(x) = 3(2x + 2p) = 6(x + p)$ から, 曲線 $y = f(x)$ の変曲点を (x, y) とおくと, $f''(x) = 0$ から $x = -p$ となり, また(*)から $m = p^2 - 1$ なので,

$$y = f(-p) = -p^3 + 3p^3 - 3(p^2 - 1)p = -p^3 + 3p$$

すると, $y = -(-x)^3 + 3(-x) = x^3 - 3x$ となり, 変曲点の軌跡は,

$$\text{曲線: } y = x^3 - 3x$$

[コメント]

3 次関数のグラフの極大値と極小値の差という有名問題です。類題を『2 次数学ランドマーク』の「微分と積分」の第 1 問に, 同じ解法で掲載しています。

3

問題のページへ

3点 $O(0, 0, 0)$, $A(0, 1, 1)$, $P(x, y, 0)$ に対して,

$$\overrightarrow{AO} = (0, -1, -1), \overrightarrow{AP} = (x, y-1, -1)$$

すると, $|\overrightarrow{AO}| = \sqrt{2}$, $|\overrightarrow{AP}| = \sqrt{x^2 + (y-1)^2 + 1}$, $\overrightarrow{AO} \cdot \overrightarrow{AP} = -(y-1) + 1 = -y + 2$

さて, $\angle OAP = 30^\circ$ なので, $\overrightarrow{AO} \cdot \overrightarrow{AP} = |\overrightarrow{AO}| |\overrightarrow{AP}| \cos 30^\circ$ から,

$$-y + 2 = \sqrt{2} \sqrt{x^2 + (y-1)^2 + 1} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$-y + 2 \geq 0$ ($y \leq 2$) のもとで, $(-y + 2)^2 = \frac{3}{2} \{x^2 + (y-1)^2 + 1\}$ となり,

$$2(y^2 - 4y + 4) = 3(x^2 + y^2 - 2y + 2), \quad 3x^2 + y^2 + 2y = 2$$

これより, $3x^2 + (y+1)^2 = 3$ から, $x^2 + \frac{(y+1)^2}{3} = 1 \dots\dots\dots(*)$

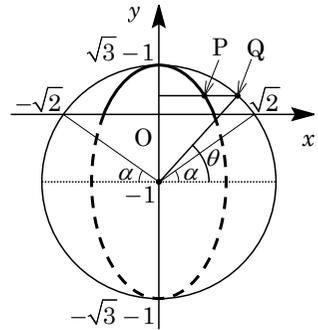
したがって, xy 平面上の点 P の軌跡は, $y \geq 0$ と合わせ
て, 楕円(*)の $0 \leq y \leq 2$ の部分である。

図示すると, 右図の太実線部となる。

ここで, 中心 $(0, -1)$ で半径 $\sqrt{3}$ の円周上の $y \geq 0$ の部分
に点 $Q(\sqrt{3} \cos \theta, \sqrt{3} \sin \theta - 1)$ ($\alpha \leq \theta \leq \pi - \alpha$) をとる。

ただし, $\cos \alpha = \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{3}}$, $\sin \alpha = \frac{1}{\sqrt{3}}$ である。

このとき, 点 Q と y 軸との距離を $\frac{1}{\sqrt{3}}$ 倍した点が楕円



(*)上の点 P となり, $P(\cos \theta, \sqrt{3} \sin \theta - 1)$ と表すことができる。

すると, $x = \cos \theta$, $y = \sqrt{3} \sin \theta - 1$ ($\alpha \leq \theta \leq \pi - \alpha$) から, $f(\theta) = (x+1)(y+1)$ と
おくと, $f(\theta) = \sqrt{3}(\cos \theta + 1) \sin \theta$ となり,

$$\begin{aligned} f'(\theta) &= \sqrt{3} \{(-\sin \theta) \sin \theta + (\cos \theta + 1) \cos \theta\} = \sqrt{3}(-\sin^2 \theta + \cos^2 \theta + \cos \theta) \\ &= \sqrt{3}(2\cos^2 \theta + \cos \theta - 1) \\ &= \sqrt{3}(2\cos \theta - 1)(\cos \theta + 1) \end{aligned}$$

$\alpha \leq \theta \leq \pi - \alpha$ における $f(\theta)$ の増減は,
 $\alpha < \frac{\pi}{3} < \pi - \alpha$ から, 右表のようになる。

θ	α	...	$\frac{\pi}{3}$...	$\pi - \alpha$
$f'(\theta)$		+	0	-	
$f(\theta)$		↗	$\frac{9}{4}$	↘	

そして, $f(\alpha) = \sqrt{3}(\cos \alpha + 1) \sin \alpha = \sqrt{3} \left(\frac{\sqrt{2}}{\sqrt{3}} + 1 \right) \cdot \frac{1}{\sqrt{3}} = \frac{\sqrt{6}}{3} + 1$ となり,

$$f(\pi - \alpha) = \sqrt{3}(-\cos \alpha + 1) \sin \alpha = \sqrt{3} \left(-\frac{\sqrt{2}}{\sqrt{3}} + 1 \right) \cdot \frac{1}{\sqrt{3}} = -\frac{\sqrt{6}}{3} + 1$$

以上より, $(x+1)(y+1)$ の最大値は $\frac{9}{4}$, 最小値は $-\frac{\sqrt{6}}{3} + 1$ である。

[コメント]

空間ベクトルと 2 次曲線の融合問題です。後半は楕円のパラメータ表示を利用しましたが、図に示したように、 θ の意味に注意が必要です。

4

問題のページへ

(1) $-\frac{1}{x^2} \leq \frac{\sin x}{x^2} \leq \frac{1}{x^2}$ から、 $t > 0$ のとき、各辺を t から $2t$ まで積分すると、

$$-\int_t^{2t} \frac{1}{x^2} dx \leq \int_t^{2t} \frac{\sin x}{x^2} dx \leq \int_t^{2t} \frac{1}{x^2} dx$$

ここで、 $\int_t^{2t} \frac{1}{x^2} dx = \left[-\frac{1}{x}\right]_t^{2t} = -\frac{1}{2t} + \frac{1}{t} = \frac{1}{2t} < \frac{1}{t}$ より、 $-\frac{1}{t} < \int_t^{2t} \frac{\sin x}{x^2} dx < \frac{1}{t}$

(2) (1) より、 $\lim_{t \rightarrow \infty} \int_t^{2t} \frac{\sin x}{x^2} dx = 0 \dots\dots \textcircled{1}$ となり、

$$\int_t^{2t} \frac{\cos x}{x} dx = \left[\frac{\sin x}{x}\right]_t^{2t} + \int_t^{2t} \frac{\sin x}{x^2} dx = \frac{\sin 2t}{2t} - \frac{\sin t}{t} + \int_t^{2t} \frac{\sin x}{x^2} dx$$

ここで、 $t > 0$ のとき、 $-\frac{1}{2t} \leq \frac{\sin 2t}{2t} \leq \frac{1}{2t}$ 、 $-\frac{1}{t} \leq \frac{\sin t}{t} \leq \frac{1}{t}$ より、

$$\lim_{t \rightarrow \infty} \frac{\sin 2t}{2t} = 0, \quad \lim_{t \rightarrow \infty} \frac{\sin t}{t} = 0$$

したがって、 $\textcircled{1}$ と合わせ、 $\lim_{t \rightarrow \infty} \int_t^{2t} \frac{\cos x}{x} dx = 0 \dots\dots \textcircled{2}$

(3) $f(x) = \sin\left(\frac{3x}{2}\right)\sin\left(\frac{x}{2}\right) = -\frac{1}{2}(\cos 2x - \cos x) = \frac{1}{2}\cos x - \frac{1}{2}\cos 2x$ から、

$$\int_1^t \frac{f(x)}{x} dx = \frac{1}{2} \int_1^t \frac{\cos x}{x} dx - \frac{1}{2} \int_1^t \frac{\cos 2x}{x} dx \dots\dots \textcircled{3}$$

ここで、 $u = 2x$ とおくと、 $du = 2dx$ で、 $x = 1 \rightarrow t$ のとき $u = 2 \rightarrow 2t$ から、

$$\int_1^t \frac{\cos 2x}{x} dx = \int_2^{2t} \frac{2\cos u}{u} \cdot \frac{1}{2} du = \int_2^{2t} \frac{\cos u}{u} du = \int_2^{2t} \frac{\cos x}{x} dx$$

$\textcircled{3}$ に代入して、

$$\begin{aligned} \int_1^t \frac{f(x)}{x} dx &= \frac{1}{2} \int_1^t \frac{\cos x}{x} dx - \frac{1}{2} \int_2^{2t} \frac{\cos x}{x} dx \\ &= \frac{1}{2} \int_1^2 \frac{\cos x}{x} dx + \frac{1}{2} \int_2^t \frac{\cos x}{x} dx - \frac{1}{2} \int_2^{2t} \frac{\cos x}{x} dx \\ &= \frac{1}{2} \int_1^2 \frac{\cos x}{x} dx - \frac{1}{2} \int_t^{2t} \frac{\cos x}{x} dx - \frac{1}{2} \int_2^{2t} \frac{\cos x}{x} dx \\ &= \frac{1}{2} \int_1^2 \frac{\cos x}{x} dx - \frac{1}{2} \int_t^{2t} \frac{\cos x}{x} dx \end{aligned}$$

すると、 $\textcircled{2}$ から、 $\lim_{t \rightarrow \infty} \int_1^t \frac{f(x)}{x} dx = \frac{1}{2} \int_1^2 \frac{\cos x}{x} dx$ となる。

[コメント]

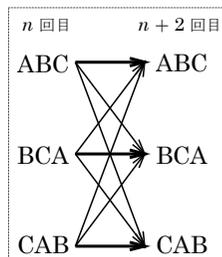
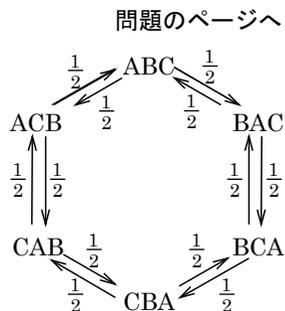
定積分と極限の融合問題で、阪大で頻出のタイプです。(1)→(2)、(2)→(3)という誘導が丁寧につけられています。

5

題意の操作を行うと、右の6つの文字列が現れる。

ここで、最初の文字列が ABC であるとき、コインを n 回続けて投げたあとの文字列が ABC である確率を p_n 、BCA である確率を q_n 、CAB である確率を r_n とおく。

すると、 $p_1 = q_1 = r_1 = 0$ 、 $p_2 = \frac{1}{2}$ 、 $q_2 = r_2 = \frac{1}{4}$ であり、 n 回目と $n+2$ 回目の状態の推移図は右図のようになる。なお、太矢印、細矢印の表す推移確率は、それぞれ $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ である。



そして、これを漸化式として立式すると、

$$p_{n+2} = \frac{1}{2}p_n + \frac{1}{4}q_n + \frac{1}{4}r_n \dots\dots\dots ①$$

$$q_{n+2} = \frac{1}{4}p_n + \frac{1}{2}q_n + \frac{1}{4}r_n \dots\dots\dots ②$$

$$r_{n+2} = \frac{1}{4}p_n + \frac{1}{4}q_n + \frac{1}{2}r_n \dots\dots\dots ③$$

(1) ①-②より、 $p_{n+2} - q_{n+2} = \frac{1}{4}p_n - \frac{1}{4}q_n = \frac{1}{4}(p_n - q_n)$ となり、 $n = 2k$ のとき、

$$p_{2k+2} - q_{2k+2} = \frac{1}{4}(p_{2k} - q_{2k})$$

すると、 $p_{2k} - q_{2k} = (p_2 - q_2)\left(\frac{1}{4}\right)^{k-1} = \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{4}\right)\left(\frac{1}{4}\right)^{k-1} = \left(\frac{1}{4}\right)^k$ となる。

(2) ①+②+③より、 $p_{n+2} + q_{n+2} + r_{n+2} = p_n + q_n + r_n$ となり、

(i) n が偶数 ($n = 2k$) のとき $p_{2k+2} + q_{2k+2} + r_{2k+2} = p_{2k} + q_{2k} + r_{2k}$

これより、 $p_{2k} + q_{2k} + r_{2k} = p_2 + q_2 + r_2 = \frac{1}{2} + \frac{1}{4} + \frac{1}{4} = 1$ となり、①から、

$$p_{2k+2} = \frac{1}{2}p_{2k} + \frac{1}{4}(q_{2k} + r_{2k}) = \frac{1}{2}p_{2k} + \frac{1}{4}(1 - p_{2k}) = \frac{1}{4}p_{2k} + \frac{1}{4}$$

すると、 $p_{2k+2} - \frac{1}{3} = \frac{1}{4}\left(p_{2k} - \frac{1}{3}\right)$ から、

$$p_{2k} - \frac{1}{3} = \left(p_2 - \frac{1}{3}\right)\left(\frac{1}{4}\right)^{k-1} = \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{3}\right)\left(\frac{1}{4}\right)^{k-1} = \frac{1}{6}\left(\frac{1}{4}\right)^{k-1} = \frac{2}{3}\left(\frac{1}{4}\right)^k$$

よって、 n が偶数のとき、 $p_n = \frac{1}{3} + \frac{2}{3}\left(\frac{1}{4}\right)^{\frac{n}{2}} = \frac{1}{3} + \frac{2}{3}\left(\frac{1}{2}\right)^n$ である。

(ii) n が奇数 ($n = 2k-1$) のとき $p_1 = q_1 = r_1 = 0$ なので、①②③から帰納的に、

$$p_{2k-1} = q_{2k-1} = r_{2k-1} = 0$$

よって、 n が奇数のとき、 $p_n = 0$ である。

[コメント]

確率と漸化式の問題です。(1)の問題文から、まず n を偶奇に分けて考えました。